

登山報告書

●目的地：トムラウシ山南東斜面（2100m）

●期日：2018年1月19日～1月21日

●目的：トムラウシ山南東斜面を滑る

●参加者

L：丸谷 聖一 62歳

SL：船木 上総 62歳

M：日角 彰 65歳

M：小野由紀子 45歳

●行程

19日（金）トムラウシ温泉出発（9：10）＝カイヤツナイ川（12：50）＝ハンクムラウシ川（15：00）＝1115 ポコ手前 conta1050m
（15：50）C1

20日（土）CS（4：40）＝1743 ポコ西コル（9：00）＝トムラピーク（11：40）＝南東斜面下降（12：10）
＝1743 ポコ西コル（12：30）＝CS（13：40～14：30）＝ハンクムラウシ川（15：00）＝カイヤツナイ川
（17：00）＝夏道尾根 conta1010mC2（18：30）

21日（日）CS（8：30）＝トムラウシ温泉（11：30）下山

●実際の行動

19日（金）天気：雪のち晴れ 気温：-10℃前後風弱し

トムラウシ温泉に全員集合。足首程度の軽いラッセルでスタートするも、徐々にラッセルは膝下程度のやや重の雪に変化しはじめ、結構苦勞する。最初のカイヤツナイ川の渡渉地点に向かい高度を下げると沢の音がはっきり聞こえ、結構水面が見えていて不安感をおおる。何とか渡渉地点を見つけ対岸の壁に取り付いた。前トムラウシから伸びる南東尾根を乗越して、カイヤツナイ林道に当て、次の渡渉地点であるハンクムラウシ川に向かう。林道上是やや重の脛ラッセル。渡渉地点に着いたのが15：00で行動時間はあと1時間程度。結局1115mポコ手前の1050mでC1とする。ラッセルで全員消耗するも、最後のラッセルはオノッチが一手に引き受け、おじさん達を引っ張ってくれた。感謝感謝。夜は満天の星。

20日（土）天気：雪後快晴。気温：-10℃前後、ほとんど無風。ピークは南風5m/sの微風。

2時半起き。雪がはらはら舞っているが、上空は星空。飯を食うのももどかしく、ヘッドランプつけて、まずは1115mポコを目指し出発。登り始めて2時間半後の1400m尾根上でニペソツから昇るご来光を仰ぐ。前トムラウシ山を左手に見ながら、ひたすらラッセルで登ること4時間半。ようやく1743mポコ西にたどり着く。と同時に双耳というよりも大きな鬼の角を持ったトムラウシ本峰がドカーンと姿を現す。でかい。鬼のヒタイには遠目で見てもわかる軟らかそうな雪がたつぷりと載っかっているじゃありませんか。

1800mあたりから斜面は急勾配となり、巨大ジグを切りながら両角の中間地点のヒタイを目指す。雪は硬くなることも無く、トムラウシ山頂台地の2100mまで難なくスキーで行けてしまった。全員握手を交わす。リーダーとしての本計画の最高到達点は、ここと決めていましたが、リーダー以外の3名は本峰2141.2m登頂の意志捨てがたく、30分程かけてピーク往復を果たす。強風が当たり前のトムラウシで、こんな快晴微風の天気にもぐり合えるとは思ってもよらず、これからの私のすべての運を使ってしまったの

登山報告書

ではと不安になるほどの恵まれようでした。オプタテから始まる十勝連峰、中央高地最高峰旭岳らの眺めを堪能しながら、体力の回復に努める。

いよいよ conta2100m からの滑降開始だ。斜面にスキーテールを突き刺す。『おりゃ〜』と一叫びして斜面に飛び出す。雪は良い、安定している。最近はやりの大曲げカービングターンは封印し、小曲げでスピードはあくまでも自分のコントロール下にある。そんな滑りで、どんどん高度を下げる。この『鬼のヒタイ』とも『巨大フリコ沢』とも形容できる純白巨大斜面はトムラに降ったすべての雪を最終的にここに集める集塵装置のようなものなのではないか？ふとそう思う。2012 年 1 月 8 日日帰りて頂上から滑った powder オプタテも南東斜面だった。きっと厳冬期の南東斜面はパウダーのポテンシャルが非常に高いのだ。冬型の北西風が山体に当たり風下の南東斜面に雪を溜める。そんな構図が頭に描かれる。

1700m から 1200m までの区間も斜度はゆるいが広大な溶岩台地の雪原をゆったりと滑っていくスケールの大きなスキーが堪能できる。ラッセルの苦勞が報われる非常に良い斜面でありました。

実は感慨にふけている余裕はほとんどなく、今日の午後から天気は下り坂に向かい、明日は一級の寒気が道内に入ってくることが判っていたので GS に戻って、即テント撤収。下山開始時刻は 14:30 とまともな行動時間はあと 2 時間を残すのみ。一応、明日も予備日として確保しているのであわてる必要はないが、なんとしても今日中に 2 箇所の渡渉地点は越えたあたりで G2 としたいところ。

このコースの難点は帰りも行きと同程度の時間がかかることで、行きトレースが残っている間になるべく温泉に近づきたいというのがリーダーの思惑でした。仏伊ツケ川渡渉地点ですでに 17:00 であつという間に暗くなり、夏道尾根 conta1010m で力尽き沈としました。14 時間行動で皆ヒラヒラ。夕方～夜半にかけて 30cm 程の降雪あり。

21 日（日）天気：雪時々吹雪く。気温：不明

かなり、皆お疲れなので 7 時起床。温かい飲み物を飲んでトムラウシ温泉へ向けて下山開始。たっぷりの降雪のおかげで消え々のトレースを見つけながら少しでもラッセルの負担を少なくする作戦だが、下りラッセルでかなり消耗する。それでも前日頑張ったおかげで 3 時間で温泉到着。

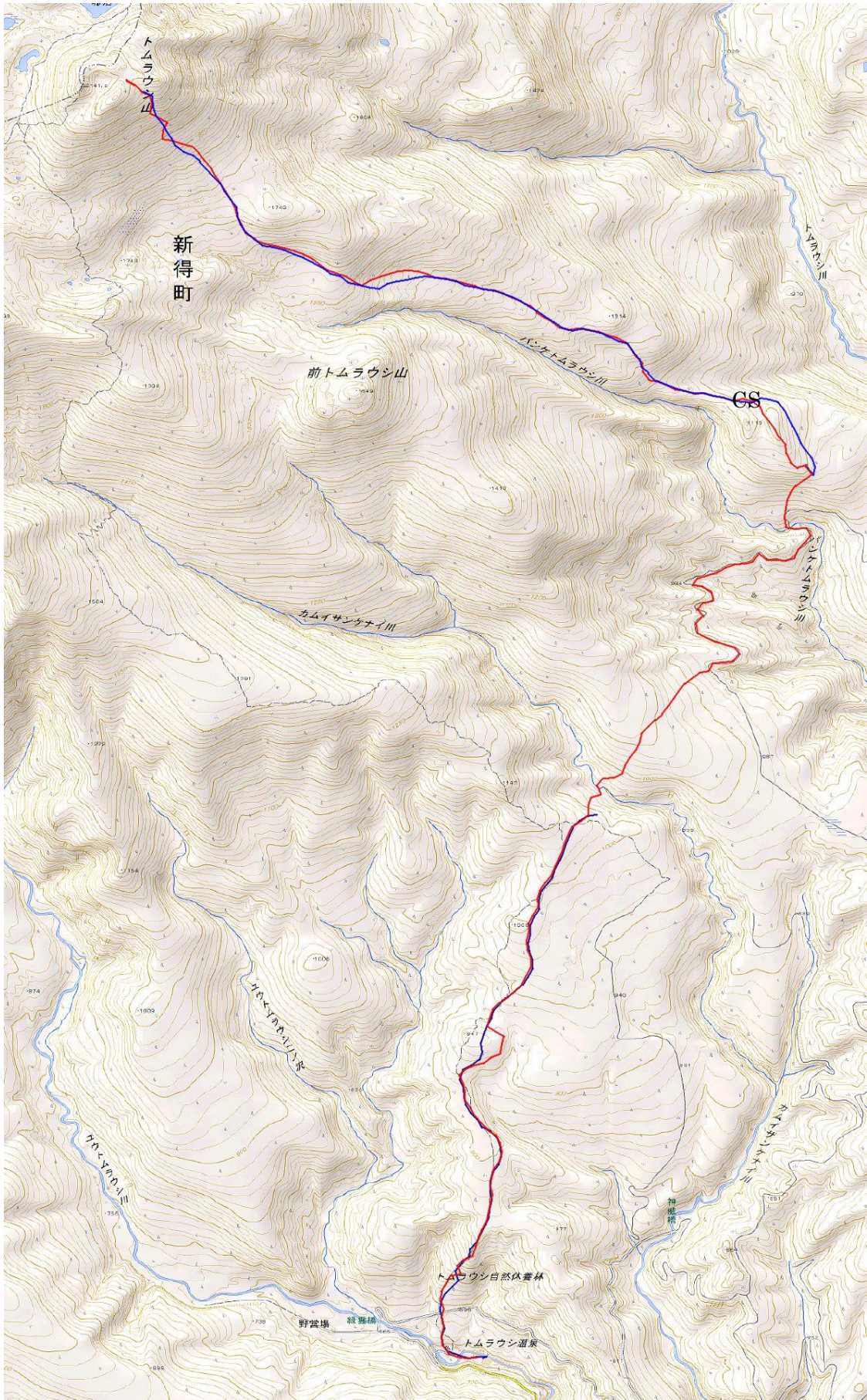
あとは、お決まりのコースで、夢にまで見た温泉につかって冷え切った体を充分に暖めて、暖まった胃袋を、冷たいノンアルビールで冷やして、何度も『生きかえる〜』を繰り返しました。

●感想

ひょっとしたらあのガリガリのトムラでも南東斜面にはたっぷりといい雪が残っているのじゃないか？という一つの疑問を検証すべく、あわよくばピークからのパウダー大滑降を満喫するという欲張り企画でした。天気にも恵まれましたが、メンバーに恵まれたのが最大の成功要因だったと思います。

上総さん、日角さん、小野さん 本当にありがとうございました。

登山報告書



登山報告書

